

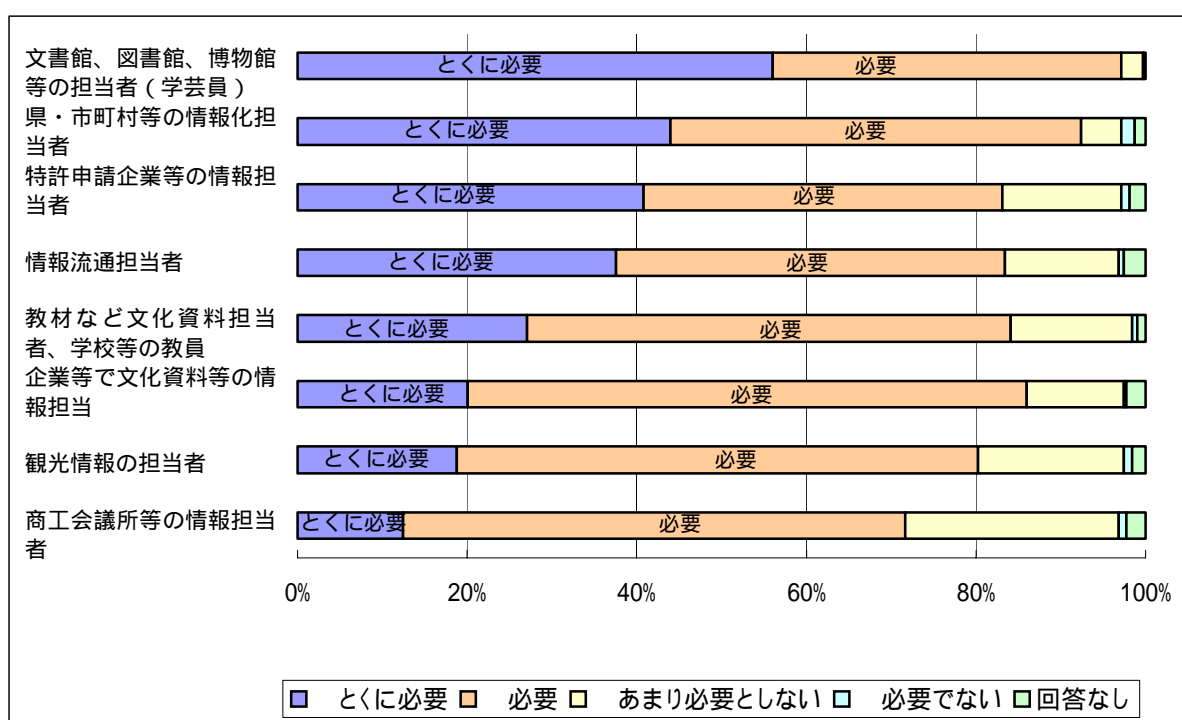
## 「デジタル・アーキビストの養成についての調査」中間報告

デジタル・アーキビストの養成の基礎資料として、どのような分野の方々に、何を教育すればよいか、調査を全国の方々にお願いしました。まだ、集計を進めていますが、次に中間報告をいたします。

調査回答数は、現在 314 名（2004 年 12 月末、まだ回答が返ってきますので、最終結果ではありません。）

回答者の職業は、博物館学芸員、図書館司書、教員、文化事業団、会社、教育センター等の指導主事、県・市町村職員など各方面の方々です。

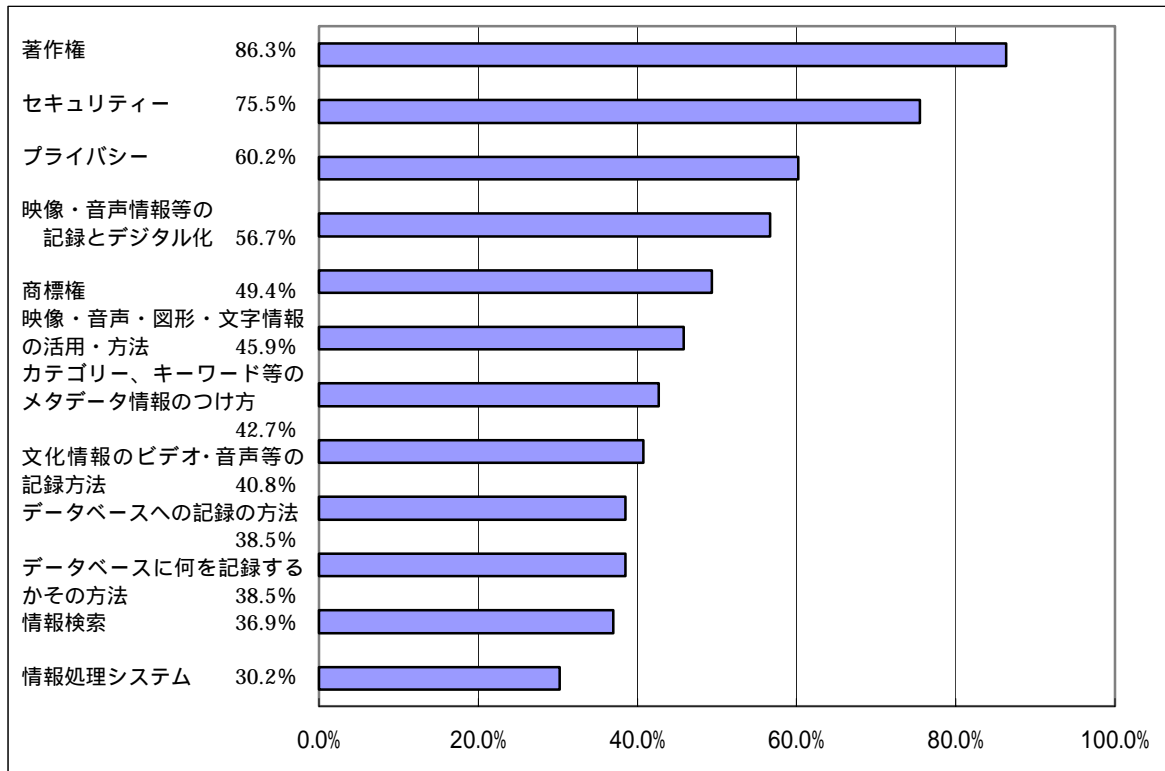
### 1. デジタル・アーキビスト的な能力はどのような分野の人に必要か。



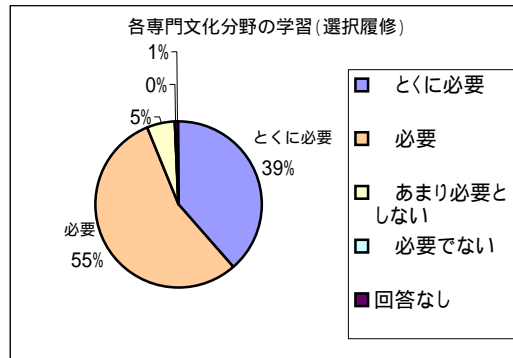
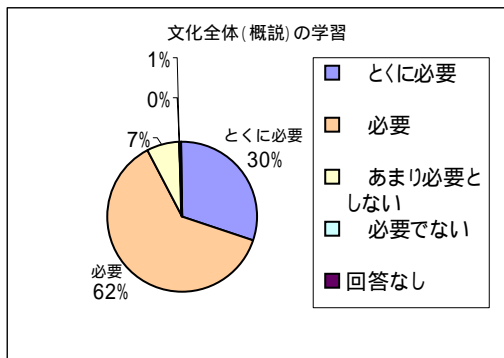
意見としては、次に示すように多様な分野で必要と記入されていた。

- ・ どの分野においても担当できる能力を持つ人が非常に少なく、これからその育成が大変必要になる。
  - ・ 職業ではないが、管理職・経営者の理解が一番必要と思われる。
  - ・ コンピュータを使って、デジタル資料作成業務を行う人全般
  - ・ 知的財産権等管理者、個人情報取り扱い管理者、マルチメディアデータベース開発者
  - ・ 幼保小中高等学校等の管理職および県・市教委、生涯学習担当者
  - ・ 劇団の情報担当者、テーマパークの情報担当者、ビジュアル関連のスペシャリスト
  - ・ 建築家やその関連業種、建築家事務所、芸術系情報系の大学、専門学校
  - ・ 書版・電子出版、マスコミ、企業広報担当者および放送局などのメディア関係
  - ・ 外国と交流のあるスポーツ団体等の関係者
  - ・ 観光事業（旅行業務取り扱い主任者）
  - ・ 福祉関係のサークル、法人等のメンバー
- など

2. 地域の文化財、文化活動等の記録・デジタル化・管理・流通・活用の担当者を育成する時、特に重要だと思うものは。



3. 文化に関する専門知識について、どのような教育が必要か。



4. 資料のデジタル化、著作権等の知的財産権、キーワードなどの適正な利用ができるデジタル・アーキビストにどのような資格が必要か。

